

- 本校の概要
- 児童数 352名 ○ 学級数 12学級
- 教育目標 「心やさしく しょうぶな子」「進んでやりぬく子」「よく考え工夫する子」
- 学校経営の基本方針 「思いやりのある児童の育成とともに、体力の向上を図る」「すべての子どもの学力向上が図れる学校」「開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域社会との連携を図る学校」
- 本校の特色 ・千鳥スタンダードの実践・始業前朝遊びやロング昼休み(月2回)の励行・学校支援地域本部(チーム千鳥地域協力隊)の支援を受けた教育活動の充実
- 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組今後の改善策 | 学校関係者記入欄 |
|--|---|---|---|----------------|----------------|---|--|--|
| プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 4:90%以上 | 4 | ○休み時間に、屋外で教師も児童と一緒に遊ぶ「とも遊び」を行い、関わり合いを深めながら基礎体力の向上を図るようとした。 ○ICT機器の積極的な活用により、各教科における効果的な指導に繋がった。児童の発達段階に応じた活用を推進し、学習意欲の向上を図っている。 ○外国語指導の充実のために、3年生から6年生では、外国語教育指導員と連携し、その効果的な活用を促し、より実践的な授業づくりに努めた。 | 「とも遊び」は、子供の様子を知る機会なので、非常によいと思いますが、成果指標の90%以上という評価がわかりにくいと思います。現在の企業は、コミュニケーション能力やリテラシーのある人材を好んで採用しています。いかに、子供達に自信を付けさせるかが重要になると考えますので、今後も続けていきたいです。 ・コロナで大変な時期に教職員の皆様の頑張りがよく見られました。 |
| | | 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 3:80%以上 | 4 | ※アンケートの回答:346名 | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:70%未満 | 4 | | |
| | | 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:70%未満 | 4 | | |
| プラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 4:A評価の割合40%以上 | 4 | ○児童の学習カルテに基づき、学習の進捗状況について、児童・保護者、教員それぞれが共通認識し、取り組み内容の効果検証を進めた。学習内容の定着を図るために継続して取り組んでいる。 ○毎週の火木金曜日に朝学習(国語・算数)を実施し、基礎基本の定着を図った。また、放課後の算数カブ塾(補習教室)において、基礎的な学力のさらなる向上を図り、児童の学習意欲の向上を図っている。 ○毎学期ごとに授業観察を行い、授業改善推進プランの着実な実施に向けて、重点的な取り組みについての効果検証を行った。 ○学習補助員を活用し、3~6年生の算数の補習を70日間、放課後に実施した。 ※アンケートの回答:346名 | ・朝学習はすばらしいと思いますので、今後も続けていただきたいと思いますが、学習意欲は本人のやる気が大きく左右されると思いますので、児童の学習へのやる気スイッチが入るような取り組みを考えたいです。 ・今年度は、大切な授業時間の変更で先生も保護者も大変だったと思います。子供達の頑張り期待しています。 | |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 | 3 | 3:A評価の割合35%以上 | 4 | | |
| | | 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 | 4 | 2:A評価の割合30%以上 | 4 | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 1:A評価の割合28%未満 | 4 | | |
| プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:AB評価の割合80%以上 | 4 | ○管理職による登校時のあいさつ指導を行い、各教室では学級担任、専科教師が一致団結してあいさつ指導を徹底している。 ○道徳教育の一層の充実のために、昨年度までの研究成果を生かし、各担任における授業公開を実施し、授業力向上に努めた。 ○児童の問題行動や不登校児童に関わる事案については、週末の職員夕会等の時間に共通理解を図り、各関係機関との連携についても取り組んでいる。 ※アンケートの回答:346名 | ・私の個人的な意見ですが大きな声でしっかりあいさつや返事ができる児童は、自信や正義感が高いと思います。大人の組織でもきちんとあいさつができる組織は相手に好印象をあたえて成果を上げられます。続けていきたいです。 ・千鳥の子供達はまじめな子がほとんどで、朝もよく挨拶をしています。1年生は学校生活が短かすぎて、まじめすぎてヤツとしたことがあります。 | |
| | | 道徳教育推進教師を講師として研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | 3:AB評価の割合75%以上 | 4 | | |
| | | 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 2:AB評価の割合70%以上 | 4 | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:AB評価の割合70%未満 | 4 | | |
| プラン4 体力増進の向上と健康の | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:90%以上 | 4 | ○「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」宿題できたかな」月間の取り組みを行い、生活習慣や礼儀作法、コミュニケーション能力の育成等、児童や保護者の励みとなるよう進めていく。 ○休み時間は、コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に、遊ぶ場所を学年で振り分け、教員が率先して関わりながら、体力の向上に関わる運動等を実施した。 ※アンケートの回答:211名 | ・何事も「健康第一」と思います。生活習慣は児童には非常に大事だと思いますので続けてください。 ・コロナの中で先生も子供達もともに運動したり走り回りたりすることができず、つらい1年だったと思います。 | |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 3:80%以上 | 4 | | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 2:70%以上 | 4 | | |
| | | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「新しい生活様式」を意識した行動を推進する。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:70%未満 | 4 | | |
| プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 4:A評価の割合60%以上 | 4 | ○若手教員の育成を目的とした「わかば」が主幹・主任教諭が主体となって実施し、指導助言を行った。集合型の研修が減る中で、身近な教職員同士が切磋琢磨する機会となった。 ○各教員同士による授業公開を実施し、互いに授業を拝見することで授業力向上へ向けての実践力を培った。また、校内OJTを進めて、共に学び合う環境整備を進めた。 ※アンケートの回答:211名 | ・先生方にはいつも本気で児童をご指導いただき感謝しています。先生の数も少なく最近の教育の在り方、新たな取り組み等を見ているとすごく大変だと思います。今後も良い教育、指導ができるようにお願いいたします。 ・公開授業がなく、また楽しい行事も来ず、子供達の様子を見るのが出来ませんが、皆、元気に様子だったのでホッとしています。 | |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | 3:A評価の割合55%以上 | 4 | | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 2:A評価の割合50%以上 | 4 | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 4 | 1:A評価の割合50%未満 | 4 | | |
| プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 | 4 | 4:85%以上 | 4 | ○学校支援地域本部の支援を受け、地域・人材を積極的に講師や支援者として招き、多くの学習活動に貢献していただいた。コロナ禍ではあるが、今後も更に連携を深めていく。 ○本校の教育活動を適切に公開するべく、校内や校外での活動の様子について、ホームページでの発信を推進した。更新頻度は、昨年より増えている。 ※アンケートの回答:211名 | ・千鳥小は、地域の活動やチーム千鳥の活動は素晴らしいと思います。アナログ的な部分が素晴らしいだけに、もう少しデジタル的な部分を進めていければともよいと思います。PTAでも今後デジタル的な部分を進めていきたいです。 ・コロナでなければ地域の方々ともっと触れ合いが出来たと思うと残念です。 | |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4:毎回情報を提供した。 3:「おおむね」情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 | 3 | 3:80%以上 | 4 | | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 | 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 4 | 2:75%以上 | 4 | | |
| | | 保護者、地域と連携して「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ・宿題」できたかな」運動を推進する。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 1:75%未満 | 4 | | |
| 学校独自 | 学校図書館の整備や司書教諭の配置などに力を入れ、読書活動の向上を図ります。 | 子どもにとって魅力的な学校図書館となるよう取り組みを行い、授業時間や休み時間の活用をはかる。 | 4:週に3回以上学校図書館を活用した。 3:週に2回以上学校図書館を活用した。 2:週に1回以上学校図書館を活用した。 1:学校図書館を活用しなかった。 | 4 | 4:85%以上 | 4 | ○司書教諭と連携し、各学年での読書活動に力を入れた。図書館利用者及び貸出冊数が大きく向上している。 | ・せっかく本を読むならば、感想文などを書いて、読んでどう思ったのかを知りたいです。 ・千鳥での図書館利用は中学へ進んでも習慣になっています。頑張ってください。 |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す